

管内生徒指導研修会

いじめ問題の理解・組織的な対応の在り方や不登校の未然防止、早期発見・早期対応、共通理解に向けた取組の充実と指導力の向上を図ることを目的として、令和元年5月30日に標記研修会を開催しました。



講義A 生徒指導主事の役割について

講師：主任指導主事 千田 有美

生徒指導主事として大切なのは、第1に連絡調整です。生徒指導主事が率先して、教職員とコミュニケーションを図り、組織で対応できる学校づくりに努めることが求められます。

- ★ 児童生徒一人一人の「自己指導能力」を育成するためには、授業場面や日常生活の中で、①自己存在感を与える。②共感的人間関係を作る。③自己決定の場を与える。の3つを意識しながら指導を行っていくことが大切です。

講義B 通常学級で発達障がいを抱える児童生徒の理解と支援について

講師：特別支援教育エリアコーディネーター 佐々木 祐子

支援を考える際には、どの年齢・発達段階でも個人の変容(ボトムアップ)と環境調整(トップダウン)の両面からの視点が必要です。年齢が上がっていくにしたがって、特に環境調整に重点を置くことが大切です。

- ★ 親や教師を困らせる言動・行動に対して、「問題行動を改めさせる」のではなく、「問題行動をとってしまう理由を考える」と視点を变えることで、具体的指導が可能となります。

講義C 不登校児童生徒への対応について

講師：指導主事 沢田 伸久

不登校児童生徒への対応では、①共通理解の基づく見通しをもった生徒指導。②個々の教員の生徒指導の力量の向上。③学校としての組織的生徒指導力の向上。の3つのマネジメントが必要不可欠です。

- ★ 不登校解決を「心の問題」として捉えるのではなく、広く「進路の問題」として捉えて、進路形成に資する学習支援や情報提供を積極的に行うことで、「社会的自立」を促すことが大切です。

講義 こころのサポート授業について

講師：いわて子どものこころサポートチーム
臨床心理士 小野寺 真由

- ★ 「心とからだの健康観察」は、子ども自身に自分の様子を気付かせるための支援ツールです。

	「こころのサポート授業」の中で、「心とからだの健康観察」を実施
	「心とからだの健康観察」の記入漏れの確認、先生記入欄の記入、内容の確認
	ストレス得点が高い児童生徒、気になる記述がある児童生徒へのフォローアップ(個別面談)

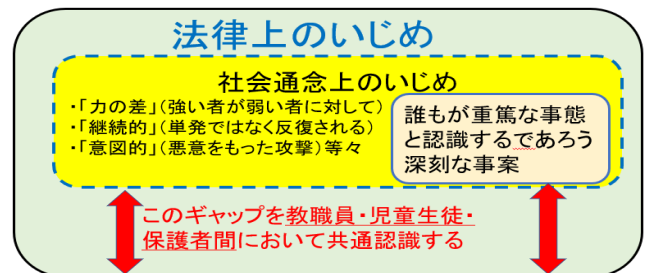
実施時期：令和元年8月26日(月)～9月13日(金)
各学校の実施日はいつでしょうか？

講義 いじめ問題の理解とその対応について

講義・演習 いじめ問題への組織的な取組の考え方と実践

講師：指導主事 松本 孝嗣

- ★ 「いじめの認知」＝「要支援児童生徒を見つける」という視点で、積極的に認知を進めることが大切です。認知件数が多いことは、児童生徒を守るために、要支援児童生徒を掘り起こした証であり、学校の感性と教育力の高まりとして、積極的・肯定的に評価されるものです。



- ★ 学校いじめ問題対策組織を中心としながら、関係機関と連携した組織的対応が重要です。そのため、学校いじめ問題対策組織における、個々の役割の明確化が大切です。

